



いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.18

2002. 2. 15発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会

〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2 - 2511

かわいい鬼っこ 楽しいな

このようなことが決まりました	2
委員会の活動は	4
特別委員会の活動	6
こんな話もしています	7
9 議員の一般質問	8
声のひろば	16

補正予算

万円を可決

12月定例会

このようなことが決まりました

その主なもの

民生費

自動車運転員養成業務委託料
130万8千円

農林水産業費

県地域農業振興費 1,426万8千円
(ハウスみかんのポリエチレンフィルム)

広域農道負担金 2,475万円

農免農道負担金 413万7千円

消防費

コミュニティ事業
(中山地区自主防災施設) 200万円

災害復旧費

公共土木施設 4,352万4千円

特別会計

簡易水道事業特別会計 32万円
(生名簡易水道水源地のポーリング)

十二月十一日から二十二日までの十二日間開かれ、補正予算、議員提出の意見書、勝浦町やすらぎ交流館「ふれあいの里さかもと」の設置管理に関する条例などを審議し、全員一致で可決しました。また、一般質問には十人の議員が登壇し、町の姿勢をただしました。



ビニールからポリエチレンに張り替え作業

一般会計

1億416

12年度決算を認定

総務常任委員会に付託の12年度各会計の決算について委員長から22項目の「特に留意すべき事項」の意見をつけ、認定すべきと報告があり質疑の後、全員一致で認定しました。

(留意すべき事項の主なもの)

- 課税は公平を期するよう (税務課)
- 坂本やすらぎ空間整備事業は目的達成に万全を (産業振興課)
- ITシステム構築による事務効率化の努力を (総務課)
- 団体助成金を含め法期限後の同和対策を適切に (同和対策課)
- マスタープラン事業による宅地造成は、十分見極め対応を (住民課)

総務委員長に対する質疑

問 課税は公平を期するようとあるが、不公平があるのか。

答 不公平があるというのではなく、よく調査し、なお一層の公平をとの意味である。

議案に対する主な質疑

問 東部広域農道はあと十年で完成するのか。また、今後の取り組みは。

答 十年では完成しないと思う。今後は幅員を5mから4mにするなどして早く完成できるようにしたい。今は舗装を中心に行っておりできるだけ利用するようにしたい。

問 災害復旧の内容は。

答 河川が一件で三百万円、道路が四件で三千九百万円である。

問 やすらぎ交流館の利用料金減免の範囲は。

答 学生とか身体障害者などに対しては減免措置をしたい。

議員提出議案

- 狂牛病について万全な安全対策と、畜産農家および流通販売関係者の経営を守る対策の強化を求める意見書
- 地方交付税の削減に反対する意見書
- 徳島地方法務局小松島出張所存続に関する意見書

総務

中山地区に自主防災組織

十二月六日開催され、条例改正と十三年度補正予算などを審議しました。

教育委員会事務局長から 旧坂本小学校グラウンドにある防球ネットを、勝浦中学校に移転する費用として五十万二千円と、横瀬小学校のナイター修理費等に二十六万六千円が必要との説明がありました。

問 ネットは旧坂本小学校グラウンドに今後も必要と思うが、坂本地区と協議したのか。

答 教育委員会事務局長 坂本地区と協議し、ネットの撤去をすることで同意を得ている。

総務課長から 十四年度のコミュニティー助成事業（宝くじ収入を財源）による、自主防災組織が中山地区に結成され、国の補助金二百万円を消防備品購入費として、補正予算に計上したいと説明がありました。

その他、人事院勧告による職員の給与に関する条例の一部改正と、政治倫理確立のための町長の資金等の



自主防災組織も必要

公表に関する条例の一部改正の説明がありました。

の活動報告

産業建設

災害復旧費

四千三百五十二万円を補正

十一月三十日に委員会を開き、今山橋上部工事変更請負契約の締結と、やすらぎの交流空間整備事業の工事変更請負契約の締結、東部広域農道、災害復旧費など十三年度補正予算について審議しました。

問 工事変更の内容は。

答 建設課長 今山橋は手すりのアンカーボルトの設置と、交流館では百㎡のモルタルの浮きが見つかり、その防水工事である。

問 設計上の見落としか、それともチエックができていなかったのか。

答 建設課長 今山橋は手すりの形式が決定したためであり、交流館については、足場を組まなければ分からなかった部分である。

勝浦町やすらぎ交流館「ふれあいの里さかもと」の設置および管理に関する条例と、農業委員会の定数問題については、全員協議会に報告し審議することです承しました。

立石正一氏の損害賠償請求の弁護士費用については、町は着手金五十一万四千円、報酬金九十万三千円で、県も同額であるとの報告があり委員会として了承しました。



完成間近のふれあいの里さかもと

沼江保育所 将来廃止の方向で



少人数では幼児教育に支障が

問 十二月六日、二十一日に委員会を開き、十三年度補正予算と沼江保育所問題について審議しました。
福祉課長から 沼江保育所の今後について、十四年度の入所希望者は五人であるが、幼児教育の面からあまり少人数では支障をきたす。保護者には説明し了解を得ているので、引き続き休止したいとの説明がありました。

十五年度以降はどう考えているのか。

答 福祉課長 幼児数も少ないので廃止の方向で行きたい。

委員会として 十四年度は休止し、十五年度以降は廃止の方向で、地元関係者に十分理解が得られるよう説明することを申し入れました。

一般会計補正予算については、同和対策課の自動車運転養成事業百三十万八千円などを審議しました。

常任委員会

職員視察報告

秋田県角館町 かくのたて

北浦環境センター

地元同意に六年

民間委託で人件費削減

厚生常任委員会は、十月二十二日から三日間、秋田県角館町の北浦環境センターと、青森県平賀町の国民健康保険平賀病院で視察研修を行いました。

北浦環境センターは、角館町など四町村のごみ処理施設で、平成十年に十四億円をかけて完成しました。対象人口は四万六千九百人、処理能力は、日量可燃ごみ五十一ト、不燃・粗大ごみ十四トですが、現在は、可燃ごみ三十五トと不燃ごみ約二トを処理しています。小動物の焼却施設も備えていて、年間約三百匹が処理されているそうです。

また、最終処理場も十四億七千万円で平成十三年に建設されています。環境センターの建設に周辺住民の同意を得るため六年を要したそうですが、補償金などの要求はなかったとのこと。

操業後、周辺住民の代表十一人が参加して、苦情や提言をする委員会を作り、年二回開催していて、十三年から周辺四地区に百四十万円の対策費を支払うことにしたそうです。

本町でも、市町村合併の検討と併せて広域ごみ処理施設も早い対応が必要で、予定地を決め、周辺住民との粘り強い話し合いが必要だと感じました。



北浦環境センター

国民健康保険平賀病院は、平成五年度から赤字経営となり、累積赤字が十億円余りになっていきます。そのため清掃、給食、ボイラー、外来窓口、送迎バスのほか、委託できる業務はすべて民間に委託して、人件費の削減に努めています。

勝浦病院も民間委託を検討していますが、追い込まれての委託でなく、早い段階で行う必要があるのではと感じました。

特別委員会の活動報告

東部広域農道整備促進特別委員会

町に損害賠償の訴えが

十月二十九日、産業建設常任委員会と合同の会議を開き、坂本の立石正一氏からの損害賠償の訴えについて協議するとともに、現地への踏査を行いました。

建設課長から 三年前の大雨で、谷川沿いにある立石正一氏所有のみかん貯蔵庫の屋敷が流出、貯蔵庫が使用不能になったのは、町が住民の要望を放置し、坂本大泉線林道の排水処理を行わなかったことと、東部広域農道の施工が雨水を加速度的に流す結果となったことが原因である。そのため被害の賠償金として、貯蔵庫の建設費など五千二百五十万円を県と町に支払えとの訴えが、徳島地方裁判所に出されたと説明がありました。

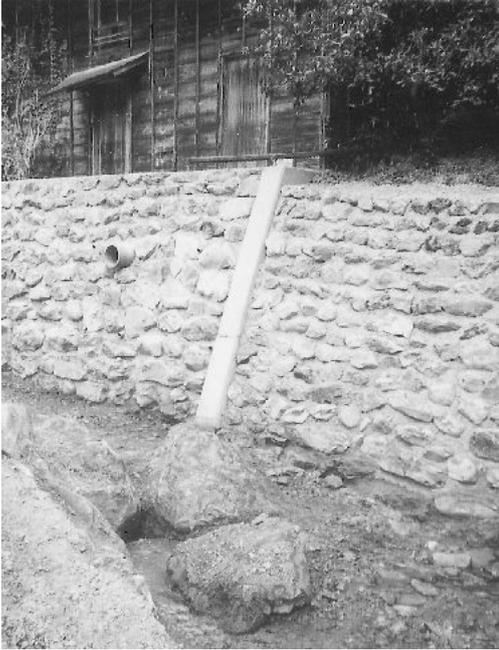
委員長から 県も町も受けて立つとの方針であると説明がありました。

問 裁判に要する費用は。

答 建設課長 弁護士に着手金として、賠償要求額の三％である二百二十五万円、報酬金は六％の四百三十八万円が必要で、これを県と折半にする。

委員会として 天災であり県や町の責任はない。経費はかかるが、「訴えられた以上受けて立つ」という町の方針を了承しました。

協議に先立ち、坂本大泉線林道と立石正一氏の貯蔵庫付近の現地踏査を行いました。
(その後の産業建設常任委員会で費用については弁護士側との話で安くなると訂正がありました)



災害復旧工事で修復されているが

勝浦川整備促進特別委員会



拡幅が待たれる柳原

十月二十六日開催され、県道徳島―上那賀線柳原工区の道路改良について審議しました。
建設課長から 地元の要望事項を含め県は河川協議をしている段階であると説明がありました。木の伐採や、水害防護壁など要望事項が全て解決されなければ拡幅できないのか。
答 建設課長 河川協議が終わった時点で県から報告を受け委員会で協議したい。

市町村合併調査特別委員会

一市四町トップ会議の 申し入れが

十一月二十六日と一月十六日に特別委員会を開き、現況報告と今後の取り組みについて協議しました。

十一月
委員長から 上勝町の町長、議長から市町村合併について今は考えていないとの報告がありました。

助役から 勝名地区の助役会の中では各町村長から明確な判断が示されていないので難しいとの報告がありました。

委員より 現況では上勝町への働きかけをする状況ではない。他の近隣市町村に対して働きかけをすべきである。
理事より 出張講座は現在各種団体に

対し九回実施している。若い人の声も聞いてほしいとの意見もある。

一月
助役より 小松島市、那賀川町、羽ノ浦町、勝浦町、上勝町の一市四町のトップ会議の申し入れがあったと報告がありました。

委員長より 特別委員会は調査研究機関であり、全員協議会での協議が必要だ。

委員より 特別委員会を設置したことは合併を視野に入れたものであり、議会としても町が将来どうあるべきかの判断をすべきである。

トップ会議の提案については賛成で、町長選挙後の適当な時期に全員協議会を開くよう議長に申し入れすることに決定しました。

こんな話もしています (議会全員協議会)

十二月十一日、二月七日、全員協議会が開催され、市町村合併、農業委員会委員の定数削減と、ふれあいの里さかもとについて協議しました。

市町村合併に

新しい動きが

二月七日、急きよ全員協議会を開き、町長から二月五日に行われた、一市四町（小松島市、上勝町、勝浦町、那賀川町、羽ノ浦町）トップ会談の内容として、平成十七年の合併特例法の期限内での合併を目指して、十四年三月ごろに任意の協議会を発足させる。

(一)十四年六月を目標に法定協議会を発足させる。

(二)各市町は対等の立場で話し合う。

(三)それぞれの首長は、責任をもって住民の合意形成に努力する。

(四)その四点が確認されているとの報告がありました。

問 六月議会での法定協議会設置は、余りにも時間が少なすぎるのではないかと。

答 理事 十七年の特例法期限内に合併を行うには、市町間で解決しなければならぬ問題も多く三年ぐらいの期間が必要である。

問 他市町村との合併を望む声もあるが、町としてはこの一市四町の方向だけに進むのか。

答 助役 結婚と同じでこちらが望んでも相手が受け入れてくれないければ仕方がない。他に同じテーブルにつける市町村は現在のところないと思う。

議員から 一市四町の枠組みについては、急な話であり、住民に対して早急に対話集会や、アンケート調査を行うなどの行動計画を、議会や住民に示すべきだとの意見が出されました。

農業委員会は

定数四人削減

の方向

産業振興課長から農業委員会委員の定数削減について、区長会、農業委員会とも財政状況からやむを得ないのではないかと意見があったと報告がありました。

議員から 定数削減の場合、一地区一人がなくなるのは困るとの意見も出ましたが町特別職の報酬据え置き、議員定数の削減から見ても、現在の十八人を十四人にすべきであると意見が一致しました。

ふれあいの里さかもと

運営費の三百万円は

問 運営委員会のメンバーは変わっていないのか。

答 変わっていない。

問 管理体制はどうなのか。

答 森敏治議員(運営委員) 午前九時から午後五時までで、管理人は二人である。宿直は四〜五人が交替で対応する。



三月三日オープンのふれあいの里さかもと

問 管理人の経費は。

答 森議員 施設の利用料金の中から日当として支払う。

問 運営費の目標額三百万円はどれくらい集まっているのか。

答 森議員 二月七日現在二百五十万円集まっている。今月末までには目標を達成できる見通しである。

問 施設利用者への送迎は。

答 業者に依頼の方向である。

井出議員失職

井出幸夫議員は、一月二十七日執行の町長選挙に立候補したため、公職選挙法第九十条の規定により、一月二十二日届出の日をもって失職しました。

一名の欠員については、公職選挙法第百十三条の規定により、補欠選挙が必要な「議員定数の六分の一を超える」に至らないので、選挙は行われません。

なお、一般質問については、本人が掲載を辞退されました。

どう活用する

雇用創出事業

グリーンツーリズム事業やファームサービス事業に（産業振興課長）

森 敏治 議員



答 尾原住民課長 公
営住宅の樹木が大

きくなり、景観が損わ
れているので、整枝、せ
ん定を行う計画をしてい
る。

答 光井福祉課長 ひ
とり暮らしや高齢

者夫婦に、個別訪問に
よる介護保険の広報相
談事業を実施したい。十
四年

度から三カ年で八百八
十万円を申請している。

答 山平教育委員会事
務局長 今年度初

めて行ったパソコンの講
習会を、十四年度からも
社会教育の一環として行
う。その講師料として活
用したい。

国民年金

納付方法は

どう変わる

問 今まで婦人会が集
めていた国民年金

の納付方法が変わると聞
くが、どうなるのか。

住民に十分周知する必
要があるのではないかと
も、婦人会との話し合
いは持たれたのか。

答 尾原住民課長 法
が改正され、四月

から収納事務を国が行
うことになり、今までの
収納組織は廃止される。
婦人会の役員には説明し
て承願している。

また、今後は口座振替
で納入してもらえよう
と、婦人会に手続きを依
頼している。住民に対す
るPRとして、既に広報
にシリーズで取り上げて
いるが、今後、広報の紙
面を広くしたり、国から
のパンフレットを利用し
て、免除制度や特例制度
も周知していきたい。

給食センターで

の牛肉使用は

問 一月から使用したい
（教育委員会事務局長）

答 狂牛病の発生以来
風評被害で畜産農

家や関係業界は大打撃を
受けているが、一般生活
者にとっても大きな生活
不安となっている。



1月から学校給食に牛肉使用

町長三期目が 実現したら

問 町長は三期目に挑
戦されるが、夢が

実現した場合、過去八年
間の経験を政策にどう生
かすのか。

答 町長 三期目はま
だ当選していない

ので差し控えたいが、今
の姿勢を崩さず、厳しい
中でもみんなが明るく暮
らせる福祉を中心として
潤いと安らぎのある「ほ
つと」するような行政、
また、地域だけにとらわ
れず、国際的なレベルの
交流など大きな観点から
「はつと」するような町
づくりを考えたい。

狂牛病の発生以来、風評被害で畜産農家や関係業界は大打撃を受けているが、一般生活者にとっても大きな生活不安となっている。

問 補助率100%の緊急
地域雇用対策事業
をどんな施策に活用し
ようとしているのか。
答 戸川産業振興課長
この事業は、完全
失業率が五・四%になっ
たことから、国の新たな
対策として出されたもの
であり、各課が協議して
申請している。



グリーンツーリズム農村体験施設

住宅マスタープラン

宅地造成事業の早期決断を

今、結論を煮詰めている（町長）

中田丑五郎 議員



民間の分譲宅地

問 三月定例会で、宅地造成計画について、「十三年度中に判断したい」との町長答弁であったが、来年度予算編成時期が目前に迫っている。決断材料はできているのか。

答 尾原住民課長 アンケート結果の追跡調査を進め、過去に実施した調査資料をもとに、

事業に着手するかどうかが理事者と協議したい。

問 宅地造成調査地の生名、沼江地区関係者や購入希望者に対しても早急に結論を出す必要があると思うが。

答 町長 アンケート調査等の分析を行い、財政当局にも検討を指示し、今、結論を煮詰めている。

緊急雇用対策事業の効果は

問 今まで実施してきた緊急雇用対策事業の効果は。

答 戸川産業振興課長 勝浦八景選定事業は、国際文化村プロジェクトの推進拠点づくりと、ふるさと再発見による地域の活性化や雇用促進の支援、民間活力のNPPO育成に効果があった。

問 今後の事業計画と雇用人数は。

答 戸川産業振興課長 グリーンツーリズム事業やファームサービス事業を計画しており、十四年度から三力年で、それぞれ十三人程度の雇



スクールバス利用の拡大を

用を予定している。

問 光井福祉課長 介護保険制度の広報相談活動を、十四年度から三力年で六人の雇用を計画している。

答 町の独自性に任された事業であり、地域に合った本当に必要な事業を展開しなければならぬ。今回、町民からの要望はなかったのか。

答 戸川産業振興課長 県の説明から時間がかかったため、事業内容について浸透は難しく、要望は聞けなかった。

学校施設の開放は

開放は

問 週五日制の導入により施設の開放はどうかっているのか。

答 教育長 体育館、運動場は学校の行事に支障のない範囲で社会体育に利用されている。校舎内はすでに生小で学童保育に利用しており、横小も四月から利用できることになっている。

問 総合学習の中の体験学習に、スクールバスの利用はできないか。

答 教育長 坂本地区の生徒の送迎を原則としているが、現在は

授業でも利用している。利用方法によっては認可を得なければならぬ。

問 総合学習を充実させるため、町独自の予算措置を講ずる考えは。

答 山平教育委員会 学校から創意工夫をした計画が出されているので、経費は町単独で対応を検討している。

ホームヘルパー養成研修の開催を

問 ヘルパー研修会の成果と、研修修了者の就業状況は。

答 光井福祉課長 介護の知識や技術の習得、また、資格の取得による雇用機会の確保が図れる。就労状況は、二級ヘルパー六十人の内、十五人が就職、九人が家庭介護に従事している。

問 引き続き、ホームヘルパー養成研修会を開催してはどうか。

答 光井福祉課長 効果が上がっているため、十四年度に三十人程度の二級ヘルパー研修会を考えている。

鳥獣被害

みかん農家は泣いている

免許を取り自己防衛も

(産業振興課長)



川端雅夫議員

催と合わせ貯蔵みかんの品評会などを行い、県内外の観光客に勝浦みかんの良さをPRしてはどうか。

答

戸川産業振興課長

一月二十六日のJA祭りでも品評会も行われる予定である。今後、ひな祭りの開催時期に合わせた企画も考えていきたい。

問

農業経営改善と地域活性化の一つとして、特産品づくりを考えてはどうか。

答

戸川産業振興課長

グリーンツーリズム事業で都市との交流を進め、産直部会や通販を通じ取り組んでいきたい。

県道徳島―上那賀線 今後の改良計画は

三カ所を予定

(建設課長)

問

県道二車線化がまだ実現していない。「何とかならないか」との声も多い。今年の改良計画の予定は。

答

坂井建設課長

一工区からの計画となっているが、協議の結果によつては二工区からの着工も考えていきたい。また、現道の拡幅にも取り組んでいきたい。



急がれる県道二車線化

問

坂井建設課長 柳原工区は河川協議のあと実施計画にはいる。長柱工区は四件の用地買収のみ。沖野工区は高良神社の曲り角付近の山切りを事業費一億円で計画している。

答

職員の間時間外手当が年間三千二百九十

十万円支給されているが、事務の効率化を図るため適材適所への配置や、専門職員の養成をすべきてはないか。

答

秋本参事兼総務課長

職員もプロ意識を持って対応し、時間外が一時間でも減るよう努めていきたい。

答

倉橋助役

今年度は中山間直接支払や、坂本グリーンツーリズム事業、参議院選、知事選など特殊事情もあった。また、時間外が多い病院の保険請求は、将来民間委託も考えていきたい。

問

昨年各種団体補助金を一割カットしたが、見直しをする考えは。また、町の施設の利

答

秋本参事兼総務課長

団体活動停止、機能低下のおそれがあり、今年はこれ以上のカットは難しい。利用料使用料については本年度に見直すことにしている。

不法投棄

パトロールの成果は

問

家電四品目等の不法投棄の実態は。また、パトロールの成果と今後の取り組みは。

答

尾原住民課長

テレビ八台、洗濯機三台、冷蔵庫五台、エアコン三台である。今後看板の設置、住民への啓発やパトロールの強化を図っていきたい。

問

十三年度の粗大ゴミの運搬費用と来年度の回収計画は。

答

尾原住民課長

一個百円のととき、町負担は百五万円であったが、値上げ後は二回実施し、町負担は二十一万円となった。十四年度は、六月、九月、二月の三回実施したい。

問

今年度は豊作貧乏のうえ、鳥獣の被害を受け、みかん農家は悲鳴を上げている。どんな対策を取っているのか。

答

戸川産業振興課長

猟友会で駆除班を編成し駆除を行っている。「わな」や「くくり」などの免許を取り自己防衛も考えていかなければならないと思う。

問

今年からみかん祭りが廃止になったが、ビッグひな祭りの開



鳥獣被害で農家は悲鳴

時間外手当の削減を

削減を

プロ意識を持つて対応(参事兼総務課長)

勝浦病院に透析設備を

今の体制ではできない(町長)

福徳重二 議員



一坪七十万円は
高すぎる

問

若者向けを含め公営住宅が多く建てられたが、一番新しい住宅は一坪七十万円という一般的には考えられない価格で、あまりにも高すぎる。町独自の価格設定

答

はできないのか。町長 国の補助制度に従うと、枠に入つたものになるので設計単価がかさむ。行財政改革の時代、今後は税金の無駄遣いにならないよう国、県と話し合い、安くできるよう検討したい。

町道、西岡―田中線

道路の改良は

問

生活道路でありながら町内で一番早く水没し、一番遅くまで

水没しているのが西岡田中線で、水没すると住居への出入りができなくなる。

「福利は町民すべてが等しく享受する」となっているが病人やけが人が出たときに救急患者輸送車の出入りができない。これは不公平でないか。一日も早く解消すべきだ。

答

町長 緊急時に対する配慮は行政は欠かしてはならない。難しい問題ではあるが、地域の人の同意や協力を得ながら解消できるように検討したい。

簡易水道以外も
町管理にしては

問

簡易水道は町が管理しているが、それ以外の小規模水道がまだ町内には多くある。かなり苦勞をして飲料水の確保をしているが、簡易水道と同様に町が管理できないか。

答

町長 小規模水道は法律で管理できないことになっている。

バリアフリー
構想の今後は

問

公共施設 準公共施設の段差のない設備は順次進められてはいるが、今後も進めるのか。

答

町長 予算の許す範囲で前向きにやっつけていきたい。

環境保護条例
の制定は

問

条例を研究し検討するとのことだったが、その後どうなっているか。

答

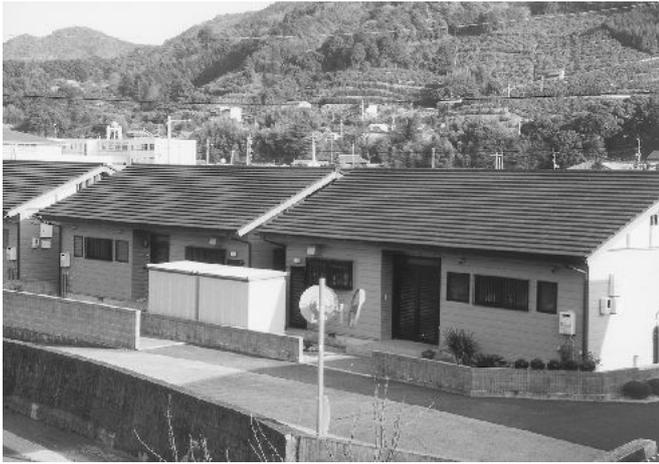
町長 骨格を前向きに検討して準備している最中である。

問 七年前には勝浦町に十四名の透析患者がいた。透析をするために日赤病院、川島病院、岩佐病院に苦勞して通院していた。

現在は患者の数も増えているので、勝浦病院に透析設備を新設してはどうか。

答

町長 病院のスペース、専門医師、また、人員配置の問題等を考えると今の体制ではできない。



1坪70万円は高すぎるのでは



すべての施設にバリアフリーを

どうする

休所中の沼江保育所

早急に検討し方針を出したい

(福祉課長)

森 健 議員



再開するか休所するかについては協議し、新年早々には方針を出したい。また、地元にも説明したい。

問

一カ年の休止期間を経て低年齢児童を持つ保護者は、生比奈保育所への通所に対してどのような意見を持っているか。

答

光井福祉課長 保護者の多くは、「施設面で充実している」「児童数が多く友達が増えた」「生活のリズムに変化が見られよくなった」「小学校に隣接しているためにプール等の施設が利用できる」などの意見

であり少数ではあるが「送迎が遠い」などの意見もある。

職員海外研修

中国農業視察

にしては

実情を知ることが必要だ

検討したい (町長)

問

わが国の農業が今ほど中国の影響を受けている時はない。

町内の農業も例外でなく、基幹産業や施設農業など今後取り組む農業施策にとって、現地を見聞することは大変役立つと思われる。中断している職員海外研修を中国農業視察にしてはどうか。

答

秋本参事兼総務課長 職員研修の一環として、徳島県市町村振興協会を通じてヨーロッパを中心に研修していたが、諸般の事情で中止している。窓口の関係で即対応はできないが、中国の農業シェアは高いので町でも検討してみたい。

答

川口町長 農業のみならず経済界全般に中国脅威論が出ている。町としても中国農業の実情を知ることが必要と考えているので検討したい。

携帯電話の

感度不良地帯の

解消を

問

機能も一段と進歩し、いまや生活必

答

秋本参事兼総務課長 町内には各地にアンテナや反射板があり、おおむね通話が可能であると考えているが、調査してみたい。



携帯電話感度不良地帯の解消を



14年度も休止の沼江保育所

問 休所中の沼江保育所は、定員を満たすだけの児童数もあり、また、近くに町営住宅や住宅地向きの所があるなど、将来も必要と思う。新年度の入所希望者数はどうなっているか、また、十四年度は再開するのか、休所するのか。

答

光井福祉課長 入所申し込みを例年より一カ月早く実施した。三歳児以下で五人の希望者がある。

所信表明

成果と反省は

反省点は多い（町長）

西浜勝己 議員



問 所信表明に取り組んでの成果と反省

答 また、来る年への抱負は、町長 成果として財政改革の断行により、減債基金、目的基金、繰越金が少してきたことである。反省点は多いが、有効な財政運営、特に住民が納得できる事業選択ができたかどうか。また、自分の人間性や町長としての資質の問題など反省しながら、今後、自分を磨いていきたい。重点六項目への取り組みはどうか

問 重点六項目への取り組みはどうか



生涯教育は幼児期から

ているか。

答

助役 一点目の「未来を開く産業づくり」としては、マーケティング戦略や商工会のプレミアアつき商品券など、また、二点目の「ゆとりと潤いのある生活環境づくり」はごみの減量化、家電リサイクル法への対応などで、それぞれ第一歩を踏み出したと思

う。三点目の「共生の心で築くまちづくり」はみかんの郷の完成により、老人福祉の施設面は充実してきている。五点目の「交流が広がる活力あるまちづくり」については、県道改良などの問題はありますが、今山橋は成果だと思ふ。最後の「個性を生かした自立できる地域づくり」は新行政改革大綱の実施計画に基づき、一歩一歩改革を進めていく。

答

教育長 四点目の「多彩な個性が薫るまちづくり」では、総合学習が試行的に取り組まれ、確実に前進している。また、情報教育の授

業も行っている。社会教育や生涯教育にも、今後一層頑張っていく。財政が厳しく、学校や社会教育団体などの要望に十分対応できなかったことが反省点である。

県来年度予算

町で取り組めるものは

国際文化村構想で良い感触が（理事）

問

県の来年度予算編成はどのような状況か。また、勝浦町で取り組めるものは。

答

理事 財政課と担当課間で煮詰めが進んでいるが、公共事業の10%削減など厳しい予算になると思う。最重要に取り組む項目として、循環型社会の構築、少子高齢化社会への対応、高度情報化の推進、次の時代を担う人づくりの四点を考えている。

新長期計画の戦略プロジェクトの一つ「国際文化村構想」の中で、勝浦町に何らかの事業が出さ



南部農免農道15年度までは今の計画で

れる感触を得ている。今後町のためになる情報をいち早くつかみ担当課に伝えたい。

どうなる

公共事業

問

公共事業の見直しや削減が伝えられるが、町道整備の来年度予算についての考えは。

答

坂井建設課長 十三年度と同額は確保したい。

問

南部農免農道の今後。

答

町長 十五年度までは今のまま事業を行い、その後は関係者

の意見を聞き対応するが現在は廃止の方向ではない。

三選に向けての考えは

問

三選出馬を表明しているが、当選の暁にはどんな考えで町政に取り組むのか。

答

町長 大変厳しい時代であるが、国際化の中で勝浦町農業のあり方、働く場所の確保や効率的な財政運営による事業選択、地方分権と町村合併問題等を大きな柱として頑張りたい。

公債費比率

県下の順位は

悪い方から三番目（参事兼総務課長）

中西晴美 議員



平成十六年、十七年度における公債費比率および債務総額の見直しは。

答 秋本参事兼総務課長 平成十六年度

の公債費比率は二十五・八％、十七年度二十三・七％の見込みである。債務総額については十六年四十九億二千八百万円、十七年四十四億六千二百万円程度になる。

問 町の財政状況について、平成十二年度における公債費比率、経常収支比率、財政力指数および債務総額と県下の順位は。

答 秋本参事兼総務課長 十二年度の公債費比率は十七・四％、

経常収支比率八十三％、財政力指数〇・二〇八である。債務は約五十八億三千万円で公債費比率の順位は県下で悪い方から三番目である。

問 財政状況が一番悪くなると思われる



工事開始から17年目の東部広域農道

問 平成十三年度今山橋に二億七百万円、

東部広域農道には三億二千万円投入されたが、それによって公債費比率がどの程度上がったのか。

答 秋本参事兼総務課長 今山橋は十三

年度〇・三％、十四年度〇・五％、東部広域農道については〇・二％になる。

問 東部広域農道は工事開始から十七年

目になるが、累計事業量と支出の総額は。

答 町長 勝浦町関係

の平成十二年度までのトータルは六十五億四千五百万円、延長は六千三百m、町負担金四億

九千百万円である。

問 今後については補助率が高く、町の費用が少なく済む事業の選択をせざるを得ないのではなにかと思うが、この点についての基本的な考え方は。

答 町長 国は公共事業の見直し、また交付税の減等いろいろ方向が変わってきている。町の財政の許す限りいろいろの面で知恵を出してやっていきたい。

土曜日を職員ボランティアにしては

考え方は良いが難しいのでは

（参事兼総務課長）

問 職員が土曜日を自

主的に返上し、ボランティア出勤すると総額で年間五千三百万円の経費削減となる。また、町道改良にしても原材料のみ支給し、出役方式にする。このぐらいのことをやらなければ厳しい中の財政再建は無理だ。



商品券への補助金増額を

答 秋本参事兼総務課長 ボランティア

出勤の考え方は非常に良いと思う。将来的な課題であるが、なかなか難しいと思う。

答 坂井建設課長 希望があれば原材料を支給していきたいが、

全ての所という訳にはいかないと思う。

商工会の商品券を増額しては

できるだけその方向でやっていきたい

（町長）

問 商工会が行っている商品券に対する

補助金を大幅に増額し、業者の売り上げ増加を図ってはどうか。収入が増えれば税収が上がると思うが。

答 町長 商工会、担当課と相談し、できるだけ増額の方向でやっていきたい。

問 地対財特法が失効するが、どのくらいの経費が削減されるのか。

答 岡本参事兼同和対策課長 地対財特法が失効しても、一般施策として残るので大きな削減にはならないと思う。

ベンチャー企業の育成は

新しい芽は出つつある（町長）

神原 忍 議員



問 不況が深刻になっている。行政として、町独自のベンチャー

企業の育成、応援をしてはどうか。以前のベンチャービジネスは、電子産業や化学など先端技術に限られていたが、現在では情報処理やサービス産業、農業もその中に入り

答 町長 よってネ市

とか、グリーンツーリズムなど、町内に新しいビジネスの芽は出つつあると思う。これからは特に交流する消費者との意見交換や、地区内でも大勢が集まり知恵を出し合い、新しい方向を模索していくことが大切と思う。行政も講演会を開

答 戸川産業振興課長

県ベンチャー企業育成についての力の入れ方は、全国的にも上位といわれるので、町内に該当者がいれば協力したい。異業種交流の会については誘致企業が集まって、不況を乗り越えるための意見交換の場を十四年度中に持ちたいと思っている。

くとか、業界トップの人の話を聞くなどして、国際化の波に乗り遅れないようにしたい。



坂本地区住民の知恵を

狂牛病に対する認識は

農家は頑張っしてほしい（町長）

溝田 義昭 議員



問 畜産団地を持つ町として、狂牛病に

対してどのような認識を持っているのか。

答 町長 生産農家を

回り話を聞いたが、国際化など厳しい中で努力している最中にこういうことになり、本当に頑張っしてほしいという気持



識別用のピアスガーブ

ちでいっぱいである。早く平常の姿に戻るよう願っている。

問

県から肉骨粉焼却について依頼があり、議会では「現時点での受け入れはできない。県下の状況を見てから」との話になっているが、その後の状況は。

答

尾原住民課長 その後、県からは、協力要請の文書は送られているが、町に状況などの報告は求められていない。

知事と町村長の会で知事から理解と協力が強く求められたと聞いている。

大玉みかんの

販売策を

問

今年のみかんは大玉が多い。味も良いので今までの販売方法でなく、農業振興アドバイザーを活用して新たな販売戦略を立ててはどうか。

答

戸川産業振興課長 今年の大玉果は異常気象によるものと思われる。新たな発想も必要と思うが、直販などで消費動向を見ながら、アド

商券の販売額は

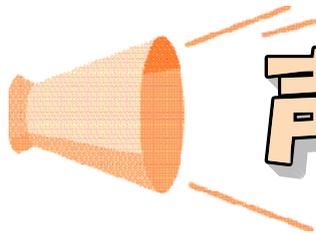
問

商工会ではプレミアムアつき商品券の発売以降も券の販売を行っているが、総額でいくら販売されているのか。

答

戸川産業振興課長 十一月末現在で、プレミアムアつき一千万円それ以外で三百九十八万五千円が販売されている。

バイザー、普及センターとあわせて研究していく必要があると思う。



声のひろば

ハウスの栽培 日本一の町から

武田すみ子 さん (与川内)
(宮崎県西都市出身)



- Q** 故郷はどんなところですか。
- A** 桜島がぼんやり見える台地で農業が中心の町です。特にハウスの栽培が日本一のところですよ。
- Q** 勝浦に住むことになったきっかけは。
- A** 大阪で兄といとこ夫婦が、主人と一緒に職場だったのがきっかけです。

- Q** どんなお仕事ですか。
- A** 化粧品の販売をしています。仕事柄良い友人が沢山できて感謝しています。

- Q** 現在の家族構成は。
- A** 嫁いできたときは八人家族でしたが、現在は主人と娘の三人暮らしです。

- Q** 勝浦町の印象は。
- A** 人情味があつて静かで優しい町だと思います。故郷と同じような感じがします。

- Q** この町に来て最初に驚いたこと、感心したことは。
- A** 山と山の間が狭いので息苦しさを感じたことを覚えています。急傾斜の山に石垣で作った段々畑、黄金色をしたみかんのすばらしさと、女性がとてもよく働くのに感心しました。

- Q** 里帰りは今までに何回ぐらいしましたか。
- A** 二年に一回ぐらい帰ります。車で十五・六時間かかっています。

- Q** 市町村合併についての考え方は。
- A** 世界へ発信していくためには時代の流れだと思っています。

- Q** 将来どんな町になればよいと思いますか。
- A** アイディアと創造力で地場産業の活性化を図り、勝浦町に嫁いで来て良かったと言えるような町になればと思います。

- Q** 好きな言葉は。
- A** 「初心忘るべからず」です。

- Q** 趣味は。
- A** 読書と美しい景色を見ることが好きです。



編集後記

昨年「戦」の年が終わり二〇〇二年の新しい年が明けました。議会も安定した一年に思っています。小泉首相の財政構造改革により国からの交付金等の減額や、避けて通れないところまで来ている市町村合併問題、すべてに町の将来を適確に見据えた議論をしなければなりません。できるだけ多くの情報を町民に提供しなければならぬと思います。

議会、たよりは議会の内容を正確に提供できる唯一の方法です。今年も今日か明日かと待っていた、だける広報にしてお届けします。厳しいご批判をお待ちしています。(重)

